

Ⅲ 久世の治世

(1) 幕府をささえた老中

23代におよぶ関宿藩主の中でも久世氏の治世は最も長く、寛文9年(1669)から幕末まで9人の藩主を数えます。

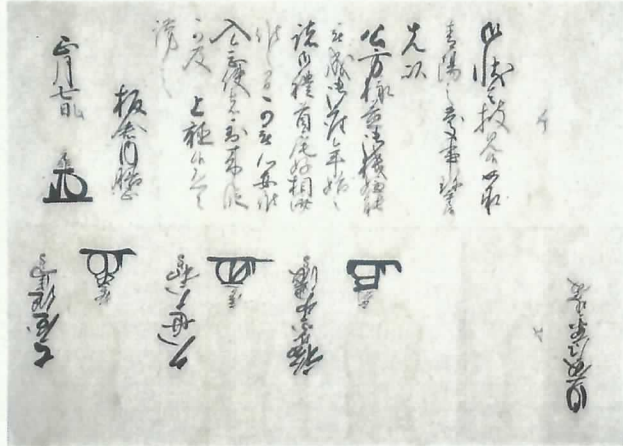
久世氏は関ヶ原の戦い以前から徳川氏に仕えた譜代の家臣で、うち広之、重之、広明、広周が幕府老中に就任したほか、大阪城代、京都所司代、寺社奉行などの要職に就き、幕政において重要な地位を占めました。

久世氏の中で最初の藩主となった12代藩主の広之は老中として、法令や制度の整備、社会秩序安定に尽力するなど文治政治の実現に努力する一方、藩内の新田開発も積極的に進めました。また、その子重之は老中として朝鮮との外交文書を取り交わしています。

なかでも、21代藩主広周は、老中として安藤信正とともに公武合体運動に力を尽くし、歴史に残る活躍をしました。また、藩内の治水事業や教育を積極的に進め、領民から最も慕われた藩主といえます。



○久世広之像



○久世広之他老中連署奉書



○久世広周老中奉書



○久世広周書状



○久世広周他老中連署奉書